

札幌市場で初の開催

旭川魚菜商業協組 高津理事長を講師に



旭川、さらに北海道全体の青果商活性化に尽力する高津氏の講義には多くの札幌市場関係者が参加

北海道旭川市場（民営）中央卸売市場に初めての旭川魚菜商業協同組合（高津敷理事長、組合員72人）では、2008年5月から組合員や市場関係者を対象に「北海道八百屋塾」を定期的に開催している。このほど札幌市

主な品種、見分け方、保

存方法、栽培方法などに加え、栄養素をとくに重視した講義を実施。効果的に含有成分の効力を発揮する調理方法や、他の食品との食べ合わせなども解説する。

当初は「あきひかわ八百屋塾」として、組合員のほか旭川市場関係者を主たる対象に行ってきた。その後現在の名称に変更し、12年3月には農水省の後援を受けて、知識習得度を検定する初の検定試験を実施した。試験問題は高津氏が大学教授からのアドバイスを受けて作成したが、出題範囲が広いうえ合格ラインは100点満点中95点という厳しいもの。20人が受験し、合格者はわずか3人。それだけに合格者

は道内でも「本物の八百屋」として評価されているという。札幌での開催のきっかけは、道央青果協同組合（竹田良男理事長、札幌中央卸売市場）の「食育対策部」のメンバー数人が以前から受講していたこと、同組合の新年会に合わせて過去2回、高津氏に講演を依頼していたこと。以前から「札幌市場でも開催してほしい」との要望があったため、同組合が高津氏に依頼し、実施となった。

参加資格は札幌市場の青果商、卸、仲卸全体に拡げ、当日は計60人が受講。受講者は「食べ方や考え方など知らなかったことをたくさん学ぶことができた。明日から活かしていきたい」「八百屋の目線での話で、非常に興味深かった」などとしている。今後も札幌での開催を検討していく。